

<b>学校教育目標</b>	「自立」「共生」そして「挑戦」 人と人との関わりの中で、自ら学び自ら成長しようとする態度や行動を通じ、自信をもって未来を切り拓いていく生徒を育てます				
	(知) 主体的に考え、意欲的に学ぶ生徒 (徳) 自分を大切にし、人を思いやる生徒 (体) 自ら鍛え、心身ともにたくましく生きる生徒 (公) 自然、地域、社会を愛し、より良くする為に他者と協働できる生徒 (関) 進取の精神を持ち、夢や目標、新たな価値に挑戦できる生徒				
<b>学校概要</b>	創立 51 周年 学校長 山崎裕之 副校長 安田慎司 2 学期制 一般学級: 12 個別支援学級: 3				
	児童生徒数: 452 人 主な関係校: 下和泉小、中和田南小、伊勢山小、中和田小				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力	泉が丘中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分の思いを伝える>言語力・表現力 <相手の思いを受けとめる>受容力 <自ら考えを深める>問題発見・解決力	下和泉小学校 中和田南小学校	○人と関わる中で自己有用感を高め、他者の良さに気づく子供 ○これ迄の学びをこれからの学びに活かすことができる子供 ・校内授業研で「言語活動の充実と自他の発表を通じた学び合い」を推進。 ・地域や保護者と共に、「人とかかわる教育機会の創出と生徒の参加」を推進。 ・児童交流日に「中学校の合唱コンクール」に触れる機会を提供。 ・ブロック教務主任会で、目標達成評価の機会として相互の授業参観を設定。 ・児童生徒の指導や特別支援教育、ユニバーサルデザインの情報交換を実施。

<b>中期取組目標</b>	教職員、保護者、地域、関係機関等あらゆる教育資源を活用した活気ある学校作りを目指します。 ① 授業など教育活動の充実を通じ、主体的に学び、自ら課題解決に向け、意欲的に取り組む態度を育てます。 ② 様々な人との関わりを通じ、お互いに認め合い、尊重しながら豊かな人間関係を築く態度を育てます。 ③ 自ら取り組む健康増進の為の行動を通じ、生涯に渡り、心身共に健やかに生きるための資質や能力を育てます。 ④ 地域や社会と接する機会を通じ、自分の役割や働く事の意義を理解し、他者と協働する態度を育てます。 ⑤ あらゆる教育機会を通じ、自己有用感を高め、自信をもって将来の夢や目標を目指す態度を育てます。
---------------	---

重点取組分野	具体的取組
<b>確かな学力</b>	①各教科ごとに指導主事を招いて研修を開いたり、校内授業研を行ったりして、「基礎学力の定着」を目指した授業力向上を図る。また、タブレット等を用いた授業の定着やオンライン授業への対応を図る。 ②学期末に生徒による授業評価を実施し、集計結果をもとにしながら授業改善を行う。
<b>豊かな心</b>	①全職員がローテーションで道徳の授業を行うことで、道徳への意識を高め、授業力の向上を図る。 ②学級や授業以外の諸活動も含め、すべての教育活動で、「自立・共生・そして挑戦」の学校教育目標を意識し、生徒の育成を図る。
<b>健やかな健康</b>	①感染症対策を徹底したうえで、体育大会をはじめとする運動を伴う諸活動を通じ、基礎体力の定着や生涯スポーツへの意識を高める。 ②体育の授業時に行う5分間走(一校一実践運動)を通じ、自ら課題解決に取り組む態度を育てる ③「桜プログラム」を通じ、食育への関心を高める。
<b>自分づくり教育(キャリア・総合教育)</b>	①職業講話・職業体験・進路指導の3本柱を中心に、他者との交流や体験的活動を行い、自分を知る。また、全ての教育活動でキャリア教育の実践を図る。 ②学校としての総合学習を体系化させる。また、教科横断型学習を意識し、身に付けた力を総合して課題解決できる生徒を育成する。
<b>特別支援教育</b>	①特別支援教育委員会を通じ、要支援生徒の把握と支援計画の作成、全職員への周知の徹底を図る。 ②特別支援教室の運営にあたり、非常勤職員の任用など積極的に外部からの支援を活用しながら、よりよい支援方法を探求する。
<b>地域連携 学校運営協議会</b>	①「放課後学び場事業」の安定的運営と事業の普及・拡大を図る。 小中連携は、年間計画以外にも適宜行うことで、生徒の状況把握と支援方法を考える一助とする。 ③学校運営協議会がブロック共有型になるのを機に、地域と職員の交流方法を模索する。
<b>情報化教育</b>	①全教職員がGIGAスクール構想を理解し、タブレット端末を利用した授業研究やオンラインによる様々な教育施策に対応できるよう研修に励む。 ②溢れる情報から自分に適したものを選択する力や、ネット社会と正しく関わっていくための情報モラル教育の一層の充実を図る。
<b>いじめへの対応</b>	①あらゆる機会で行い、職員へのいじめに対する感度を磨き、授業観察・教育相談・生活アンケート等を実施する中で細かな変化を見逃さない体制を作る。 ②学年連絡会やいじめ防止対策委員会において、組織による認知と経過観察の徹底を図る。
<b>人材育成・組織運営(働き方改革)</b>	①あらゆる機会を通じ、職員一人ひとりのキャリアアップのための情報提供や支援を行う。 ②グループウェアの更なる活用や、「教育の質を低下させない業務改善」について引き続き検討を重ねる。 ③業務改善に対する取組を、メール配信やホームページを使って積極的に保護者や地域に発信する。